

Effects of oral care with tongue cleaning on coughing ability in geriatric care facilities: a randomised controlled trial

泉, 繭依

<https://hdl.handle.net/2324/1931828>

出版情報：九州大学, 2017, 博士（歯学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名 : 泉 繭依

論文名 : Effects of oral care with tongue cleaning on coughing ability in geriatric care facilities: a randomised controlled trial
(舌清掃を加えた口腔ケアが咳嗽能力に与える影響の検討: 無作為化比較試験)

区 分 : 甲

論文内容の要旨

【目的】

高齢者施設に入居する高齢者を対象に、無作為化比較試験にて、舌清掃を加えた口腔ケアが咳嗽能力の改善を引き起こすか検討することを目的とした。

【方法】

熊本県阿蘇市のグループホームおよび有料老人ホーム 11 施設に入所の 114 名を対象とした。対象者は通常の口腔ケアに舌清掃を加えて実施する群(介入群: N=58)と通常の口腔ケアのみを実施する群(対照群: N=56)の 2 群に無作為に振り分けられた。咳嗽能力の評価には、簡易電子スパイロメータによる最大呼気流量(peak expiratory flow、以下 PEF)を用い、4 週間の介入期間の前後で測定を行った。

【結果】

介入前後の測定における脱落者を除く 109 名(介入群 57 名、対照群 52 名)を解析に用いた。介入前では、介入群の PEF 値(1.65 ± 1.11 L/sec)と対照群の PEF 値(1.59 ± 1.05 L/sec)の間に有意な差は認めなかった($p = 0.658$)。しかし、介入後では、介入群の PEF 値(2.54 ± 1.42 L/sec)は対照群の PEF 値(1.90 ± 1.20 L/sec)に比べて有意に高かった($p = 0.014$)。また、介入群と対照群ではともに介入前後で PEF 値が有意に増加していたものの、その増加量は介入群(0.90 ± 0.95 L/sec)が対照群に(0.31 ± 0.99 L/sec)比べ有意に大きかった($p = 0.001$)。

【結論】

通常の口腔ケアに比べ、舌清掃を加えた口腔ケアは有意な PEF 値の増加が認められ、咳嗽能力の改善が示唆された。これより、舌清掃を取り入れた口腔ケアは誤嚥性肺炎予防の観点からも重要と考えられる。